見て・学んで・体験して

生涯学習フェスティバル



特設ステージで披露された郷土芸能の数々が観衆を魅了しました

生涯学習フェスティバル2026が10月10日から18日までの9日間、くずま～るなどを会場に開催され、日頃の芸術活動の成果発表や各種体験活動を通じて新たな学びと発見の機会となりました。

日本の総合芸術を体験

日本の伝統文化の一つ、茶道の体験会が10月10日、くずま～るの研修室で行われ、古来から伝わる礼儀作法を体験しようと多くの参加者でにぎわいました。

講師を務めたのは、茶道裏千家（盛岡市）の菊池幹子さん（新町地区出身）をはじめとする16人の皆さん。茶室のような厳かな空間で、抹茶や和菓子を堪能し、茶道の魅力に没頭しました。参加者からは「甘味と苦味がバランス良く感じられた」といった感想がありました。

町の郷土芸能が一堂に会す

町郷土芸能団体連絡協議会（遠藤勝広会長）主催の第13回町郷土芸能発表会は10月11日、町民まつり特設ステージで開催され、町内の芸能団体6団体が出演しました。

遠藤会長は「町民まつりと合わせて郷土芸能を楽しんでほしい」とあいさつ。来賓の鈴木重男町長は「芸能文化継承の場となるような発表会に期待したい」と話しました。

会場には町に伝わる郷土芸能が一堂に会す貴重な機会とあって、幅広い世代の観衆が来場。各出演団体は、日頃の活動の成果や魅力を観衆に伝えようと、脈々と受け継がれる歌や踊りを披露。心を打つ演目の数々に、会場内で惜しみない拍手が鳴り響きました。

目指せ「くずまき博士」

葛巻ふるさと検定が10月11日、くずま～るで行われ「くずまき博士」の称号を目指す子どもから大人まで20人が受検しました。

町の文化や歴史、暮らしなどにまつわる正誤問題全25問が出題され、受検者は思案を巡らせながら果敢に挑戦しました。正答数の最高記録者は22問を記録した遠藤香津良さん（城内小路）。石角則行教育長から記録賞と賞品が手渡されました。

企画を提案した町学校と地域の魅力向上支援員の宮﨑稔さんは「葛巻はいにしえの文化が根付く良い町。町民がそれを知る機会が必要だと思い提案した。出題形式などを模索しながら今後も開催していければ」と新たな企画に手応えを感じた様子でした。


多彩な作品が所狭しと展示


茶道の作法を学ぶ参加者たち


真剣な面持ちで検定に挑戦

スポーツチャレンジWEEKくずまきの新プログラム

グラウンド・ゴルフで交流楽しむ

グラウンド・ゴルフ交流大会が10月９日、総合運動公園特設コースで行われ、町内外から約70人が参加しました。

スポーツチャレンジWEEKくずまきの新プログラムとして開催された今大会は、32ホールを回る個人戦で行われ、幅広い世代の参加者が競技を通じて交流を深めました。開会式で近藤豊美彦大会長は「スポーツに親しむ機会としてたくさんの人と交流し親睦を深めてほしい」とあいさつ。終始和気あいあいとプレーが進み、参加者たちは爽やかな汗を流しながら競技を楽しみました。男性の部で見事優勝を果たした秋山信幸さん（一戸町）は「広々とした環境の良いコースでプレーできた。今後も競技を通じて葛巻町の皆さんと交流できれば」と振り返り、笑顔をのぞかせました。


1


2

1晴天に恵まれた会場で軽快にプレーする参加者たち2成績優秀者には近藤大会長（手前）から賞状と副賞が手渡されました

多彩な企画「BOOKFES」

充実した“読書の秋”に

◀読書に親しみを持つためオリジナルのしおりを制作

読書のつどいBOOKFESが10月10日から18日まで、まなベースなどを会場に行われました。

おすすめの１冊を紹介するPOPコンテストをはじめ、本の世界をより身近に感じられる企画が目白押しとなった今回のイベント。10日には、本の帯の切り抜きなどを使ったしおりづくりコーナーが設けられ、多くの子どもたちが体験しました。参加者たちは、好きなキャラクターを基調としたしおりを作成。自身が手掛けた世界に１つしかないオリジナルしおりを手にすると、達成感に満ち溢れていました。

11月は芸術・文化推進月間

くずま～る内の会議室など無料で使用できます



芸術・文化団体の活動を推進するため、一部団体に限り、公民館で貸し出している会議室などの使用料を無料にします。

対象となる会議室や団体などについて、詳しくはお問い合わせください。

問公民館☎65-8990